

高等学校での実践



笛吹高等学校マス
コットキャラクター
ももりん



山梨県立笛吹高等学校長 廣瀬 志保

地域の捉え方

「コミュニティ型」

主に小・中学校で展開されているように、地域の教育資源（ヒト・モノ・コト）を学校の教育活動に活かしている。主に地域の人材を委員に選任し、地域コーディネーターを選任して展開していくものである。言い換えれば、地域密着型のコミュニティ・スクールということになる。

「テーマ型」

学校の教育課題による。「ICTの活用」「高度の工業技術の習得」「商品開発」「高大連携」等の、その学校のスクールミッションを実現するための課題を解決するためのコミュニティ・スクールである。この場合、委員の選任には企業や関係行政機関、高等教育機関等々の関係者となる。

総合における社会との連携に関わる論点（イメージ）

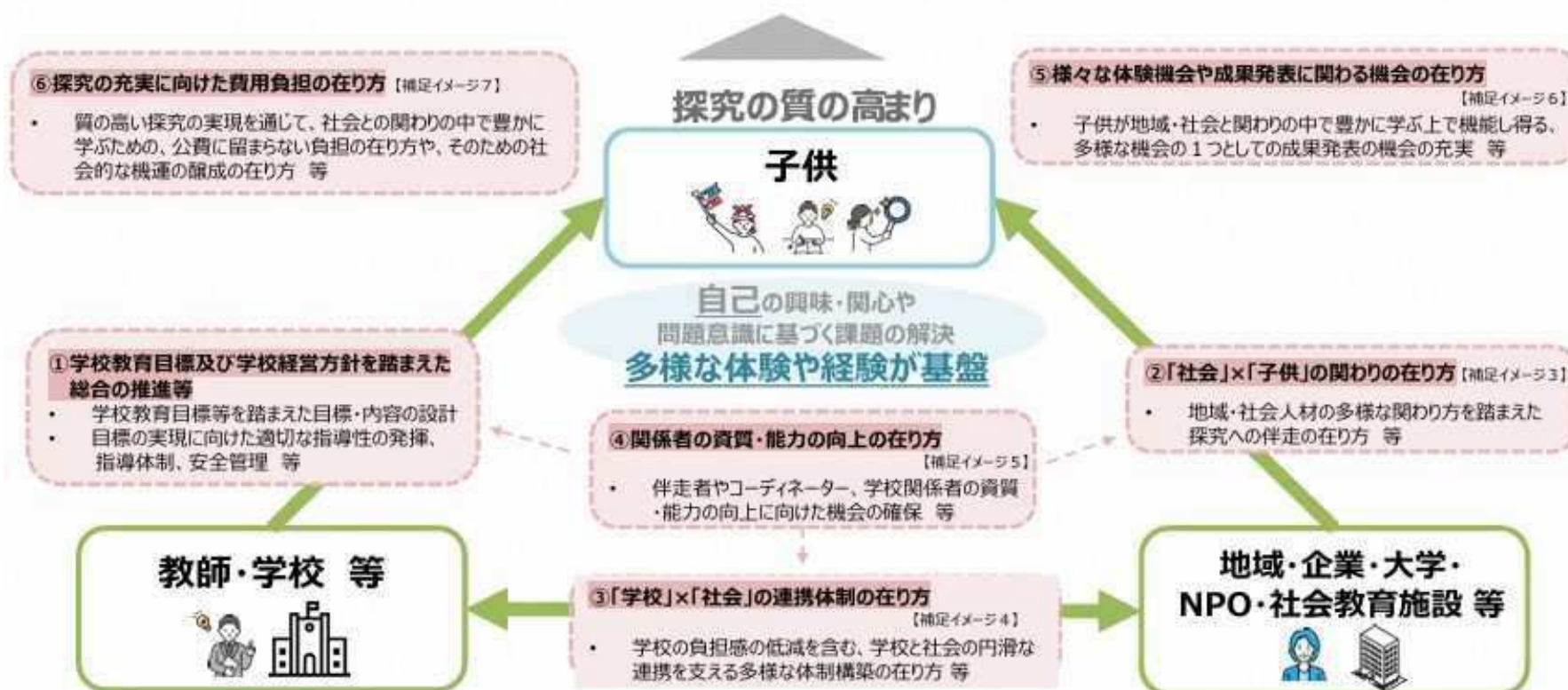
補足イメージ2

- 総合における社会連携の重要性や、学校現場が直面する課題感に鑑みれば、総合が学校における学びと社会との連携の舞台としての役割を一層果たしていく上で、各学校や地域が置かれた多様な状況に照らした取組の推進に資するよう、以下の論点について、考えられる施策の検討や、参考となり得る様々な実践事例の発信を行うこととしてはどうか。

「自らの人生を舵取りする力」

「民主的で持続可能な社会の創り手」

を育成する教育課程の実装



「カリマネの3ステップ」（ねらいの明確化—編成・実施・調整—評価・改善）による新たなイメージ

中教審総則・評価特別部会
(第9回) 資料4

ステップⅠ 子供の実態・学校教育目標等を踏まえた「ねらいの明確化」

- ・ 日々の教師による見取りや、各種調査・デジタル学習基盤から得られるデータ等を基にした子供の実態の適切な把握
- ・ 把握した実態や、学校教育目標・経営方針等を基に、教職員や地域住民、児童生徒など関係者で対話・協議し、育成を目指す資質・能力や直面する指導上の課題の解決といった、教育課程の編成・実施により実現可能な具体的成果について共通理解（※）を形成
- ・ 対話・協議を経て必要がある場合は、学校教育目標・経営方針等も柔軟に見直し

（※）必要に応じ、裁量的な時間（調整授業時数制度）を活用して対話・協議のための時間を計画的に確保

ステップⅡ 教育課程の編成・実施・調整と環境整備

ステップⅠを通じて共通理解を図ったねらいの実現に向け、教育課程の編成・実施・調整や、環境整備に取り組む。

（①教育課程の編成・実施・調整）

- ・ 以下の観点などから検討を行い、教育課程を編成（※1）
 - －調整授業時数制度や柔軟な単位制も活用（※2）し、どの教科等を、どのような時数（単位数）で、どのような日課で実施するか
 - －教科等横断的な視点（※3）を踏まえつつ、どのように単元を構成・配列するか（デジタル学習指導要領も活用）
- ・ 教育課程の実施に当たっては、調整授業時数制度を活用し、状況に応じて年度途中でも配当時数・単元の配列を変更するなど、ねらいの実現や新たに発生した課題への対応のため柔軟に調整
 - （※1）この過程で、単元配列表の形式的な作成に留まることなく、必要に応じ、当該校の教育課程を踏まえた、単元で捉えて授業を構想するための研究・研修も裁量的な時間を活用して計画的に確保し、授業改善にも繋げる
 - （※2）調整授業時数制度等の活用以外にも、週当たり時数の見直し（週29コマから28以下への変更、年度初めからの段階的増など）、単位授業時間の柔軟な変更とそれに合わせた日課表の見直し、授業日・休業日の設定の工夫など、時間マネジメントに着目した取組により効果的な教育課程編成を支えることが重要
 - （※3）各校のねらいを実現する上では、各学校で目標を定める総合的な学習（探究）の時間と各教科等の繋がりを意識することが重要となる
- ・ 何を実施するかだけでなく、ねらいに照らした取組の重点化も重視

（②人的・物的環境の整備）

- ・ 人員配置や校務分掌の最適化等の校内組織を整備
- ・ 必要な備品・教材等がある場合には計画的に確保
- ・ 教職員の専門的知見の向上や研究・研修、外部機関との連携など教育課程の編成・実施に当たって必要な場合には、裁量的な時間を活用して計画的に時間を確保
- ・ 学校運営協議会や保護者、地域の企業・団体等とも連携し、ねらいの達成に効果的な指導が可能となるよう体制整備

ステップⅢ ねらいの実現状況の把握と評価・改善

- ・ ステップⅠで共通理解を図ったねらいや、年度途中で新たに発生した課題への対応として十分な成果を挙げたかどうかについて、学習評価の状況や、児童生徒向けアンケート・ヒアリング、学校関係者評価等を通じて把握（カリマネのためだけの把握手続は必須ではない）
- ・ 把握した状況を踏まえて、教育課程や授業の改善に向けた評価・改善を検討して、ステップⅠに反映

（※）必要に応じ、裁量的な時間を活用して、課題の共有や今後の改善に向けた検討・協議について計画的な時間を確保

「子供」×「社会」の視点での関わり方の例（イメージ）

- 「社会」側が提供できる資源と学校のニーズや期待値との円滑なマッチングに資する観点から、「社会」側の連携へのコミットメントの度合いに応じて、おおまかに3層程度で、連携の深まり方のパターンをイメージとして示した上で、マイ探究／テーマ探究や、研究系／行動系／創作系といった探究の形態等に応じた多様な事例を、各学校の実態に応じた柔軟な連携を進めていく上での参考として示すことが適当。

連携の深まり方（イメージ）	具体事例
1. 出会い (Encounter) 本物「から」学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ■ ゲストティーチャーとしての講話、インタビュー、体験、ワークショップ ■ 単発（きっかけの提供） <div> <div>① 山梨県立笛吹高等学校 コミュニティ・スクールを基盤に、地域の専門家が探究の入口としての「課題発見ワークショップ」を開催</div> <div>② 静岡県立ふじのくに国際高等学校 地域の達人との出会いから始まる探究</div> <div>③ 上越市立大手町小学校 父親応援団の活動支援により、多様な体験機会を確保</div> </div> <div> <div>高校</div> <div>高校</div> <div>小学校</div> </div>
2. 伴走 (Mentor) 本物「を」意識して学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中間レビュー、助言、成果発表の受け手 ■ 年数回程度以上（社会とつながる視座の提供） <div> <div>① 横浜市立大岡小学校 日立横浜理科クラブの方々とともに、ものづくりを学ぶ</div> <div>② 小学校×特定非営利活動法人みんなのコード 授業の共同実践を通じたプログラミングによる「学びの作品化」</div> <div>③ (公社) 日本青年会議所×東京学芸大学 日本青年会議所メンバーによる「探究創造コーチ」認定制度を活用した授業サポート</div> </div> <div> <div>テーマ探究</div> <div>創作系</div> <div>小学校</div> <div>マイ探究</div> <div>行動系</div> <div>小学校</div> <div>中学校</div> </div>
3. 協働 (Collaborate) 本物「と」学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学習者が責任の一部を担う等して協働 ■ 年5回程度以上（課題に取り組む協働者として活動） <div> <div>① 佐渡市立新穂中学校 「課題解決型職場体験」</div> <div>② 株式会社 丸井×株式会社 幕明 企業とのリアルな仕事体験を通じ、将来世代が未来に向かって挑戦する力を育成</div> </div> <div> <div>マイ探究</div> <div>行動系</div> <div>中学校</div> <div>テーマ探究</div> <div>行動系</div> <div>小・中</div> </div>

連携への「コミットメント」

(深)

※三つの類型は優劣を示すものではなく、学習の目的や学校・地域の実情に応じて無理なく選

教育課程部会 生活、総合的な学習・探究の時間ワーキンググループ 第8回配布資料より 2-3(2/2)

「学校」×「社会」の連携体制の例（イメージ）

- 自治体や各学校が実態に応じて体制を構築したり、社会側と調整を行う際の参考とできるよう、全国の実例を踏まえた、学校と社会の連携を支える多様な体制構築の在り方について、多様な事例とともに示すことが適当。

体制の在り方の例 (イメージ)		関連する国事業等 (R8現在 (※1))	具体事例	
1. 地域	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校運営協議会、地域学校協働活動推進員 ■ 保護者 ■ 卒業生 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金 【補助率：国1/3、県1/3、市町村1/3】 	①山梨県立笛吹高等学校 コミュニティ・スクールを基盤に、地域の専門家が探究の入口としての「課題発見ワークショップ」を開催	高校
			②日野市立日野第四小学校 保護者有志が窓口となり、子供たちのマイ探究を支援 ③千葉県立長生高等学校×卒業生 卒業生が探究を支援 ④立命館宇治高等学校×卒業生 学校・地域・卒業生・大学が連携し、探究とキャリア教育を社会へ開く	小学校 高校 高校
2. 企業、 団体、 NPO	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の企業 ■ 経済団体 ■ NPO ■ コンソーシアム 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金 【補助率：国1/3、県1/3、市町村1/3】 	①広島県立大崎海星高等学校×商工会 「教育の島」発、地域と協働した高校魅力化 ②UMK テレビ宮崎 地元メディアを核とした探究支援体制の構築 ③NPO法人しずおか共育ネット 「一歩踏み出す」学びの仕組みを構築 ④ぐんま探究コンソーシム 地域全体で探究を支える「ぐんま探究コンソーシム」 ⑤企業×大学×環境省 SFLコンソーシアムの活動の一環としての次世代人材育成	高校 高校 高校 高校 高校
3. 大学	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国公立大学 ■ 私立大学 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 探究・校務改革支援補助金（経産省） 【補助率：民間団体1/2等】 	①東京大ONG 大学の資源と中高生の学びの接続をコーディネート ②東北芸術工科大学 デザイン思考を活用した探究学習支援を核に高大連携 ③桜美林大学 講師からの探究課題×大学生メンターで高校の探究プログラムをコーディネート	中・高 高校 高校
4. 行政	<ul style="list-style-type: none"> ■ 都道府県 ■ 市町村 ■ 社会教育施設(※2) ■ 独立行政法人 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特別交付税（地域おこし協力隊、公立高校と地域産業界連携のためのコーディネータ配置等） ■ 高等学校教育改革推進基金 	①岐阜市教育委員会 学校任せにしない社会連携に向け、地域人材・体験機会・カリキュラムを一体的につなぐ ②京都市教育委員会 「生き方探究教育（キャリア教育）」の推進 ③福井県教育委員会 県立高校の探究的な学びを支援する体制・仕組みの構築 ④新潟県（三条高等学校） 学校図書館を活用した地域課題解決をテーマとした探究学習の実践 ⑤国立青少年教育振興機構 自然体験を伴う探究学習プログラムのサポート ⑥日本科学未来館 実体験や対話を通じて関心を引き出す「探究学習プログラム」の推進	小・中 小・中 高校 高校 小・中・高 中・高

教育課程部会 生活、総合的な学習・探究の時間ワーキンググループ 第8回配布資料より 2-3(2/2)

(※1) 「関連する国事業等」の財政措置等がなされるか否かは、事業内容等により個別に決定されることに留意
(※2) 民間団体等が設置する社会教育施設等(例：企業・団体・NPO等)に含める

連携体制の特徴

CS委員・地域学校協働活動推進員が外部人材との接続を支えることで、継続的な社会との協力体制を生み出している。

- 外部講師・メンターへの**正式な依頼や日程調整等は学校が**担いつつ、大学・短大、企業、行政、JA、青年会議所、小中学校、地域代表等から成る**学校運営協議会委員や地域学校協働活動推進員が、講師候補の紹介や外部組織との接続を支えている。**

※ 学校運営協議会委員は、外部と学校をつなぐコーディネーターとしてだけでなく、**講師やメンターとして関わる**こともある

授業における連携

● 20の課題発見ワークショップ

1年次には、「ミニ探究」を経験した後の7月下旬頃に、**CS委員を含む地域専門家による20の「課題発見ワークショップ」**を実施。生徒は、防災、地域活性化、考古学、商品開発等の多様なテーマから、興味・関心に応じて**1人3講座を経験し、地域の課題と出会う。また、異なる講座に参加した生徒同士で発表し合い、互いの視野を広げる。**

※ その他、課題の設定や情報の収集にあたり、外部人材の協力を得て講演会やフィールドワークも実施

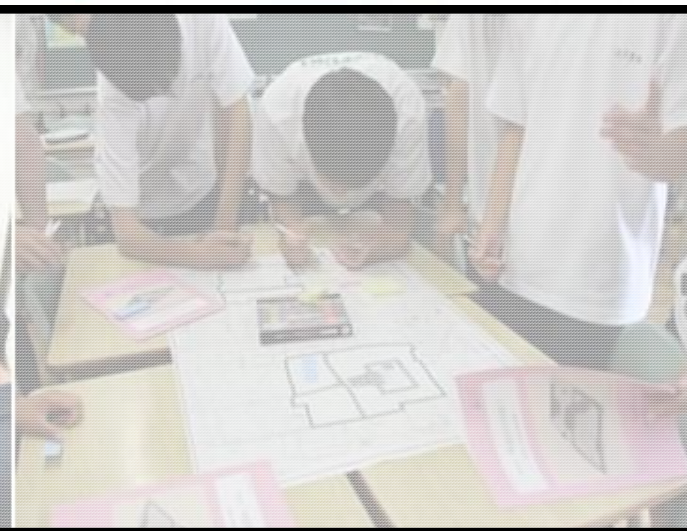
※ 地域専門家の一部はメンターとして、中間発表で助言をしたり、探究発表会で講評したりする



学校の探究活動をCS委員も含めた地域全体で支える



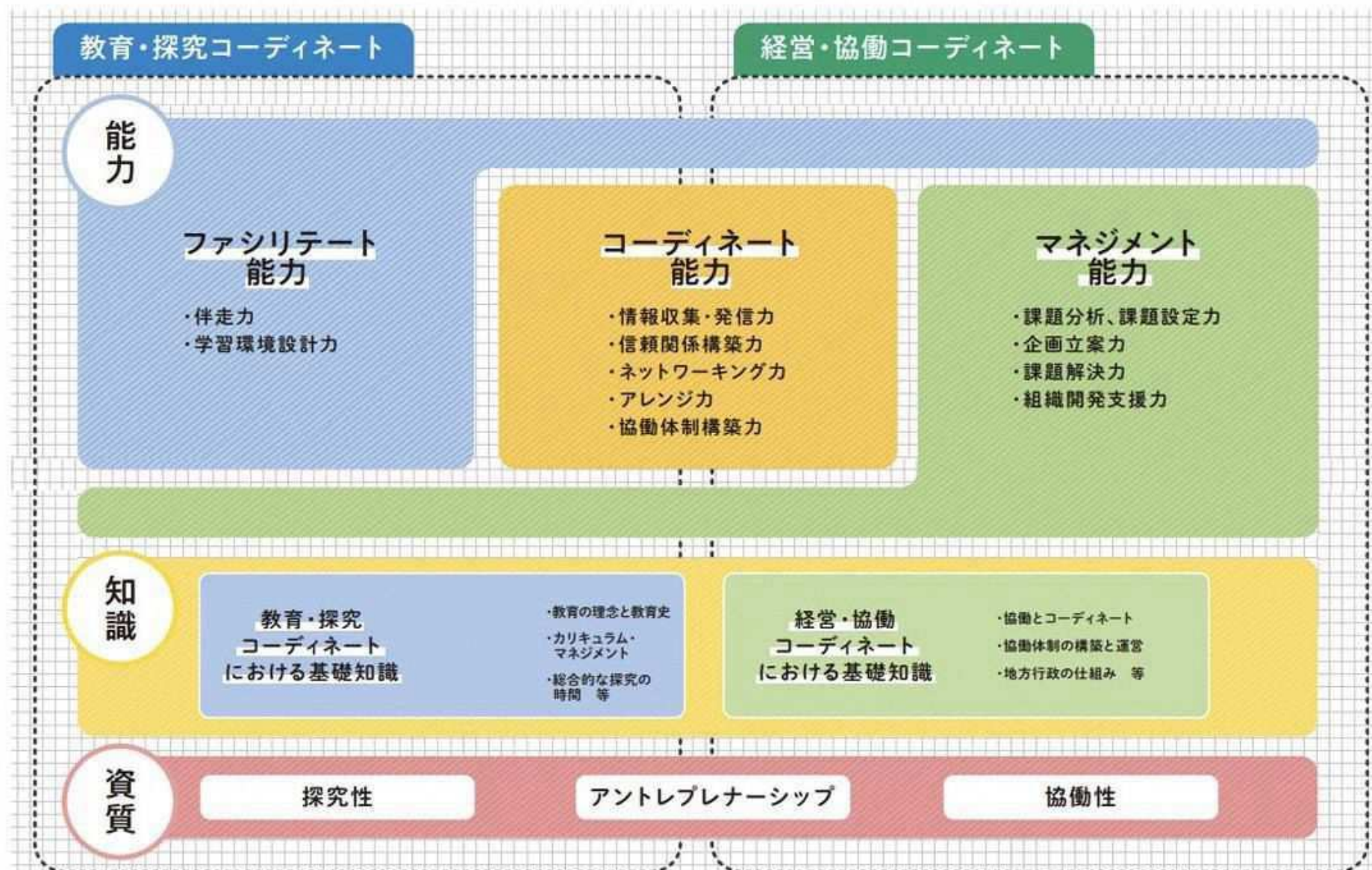
生徒の意見を聞きながら活動を進める



課題発見ワークショップの様子

高校コーディネーターに期待される力

(文部科学省「高校コーディネータースタートガイドブック (R7.3)」より作成)



令和5年度課題の整理と令和6年度の取り組み

課 題

- 【課題1】継続的な小中学校との連携の確立。
- 【課題2】学校評価の項目の定量化。
- 【課題3】特色である探究できる高校であることの周知。

4つのチームで詳細を検討

新たに「地域連携チーム」「評価検証チーム」「広報チーム」「生徒育成チーム」の4チームをつくり組織的に活動する。



チームでの熟議と実践

地域連携チーム

【継 続】総合的な探究の時間・FFグローバルの授業で地域人材の継続的な連携活動の推進。

【課題 1】中学校の総合的な学習の時間のオリエンテーションや発表の機会に連携。
高校での実践事例の紹介や探究の楽しさを伝える。
小中高の教員での研修会の実施。
陸上部員が小学性に陸上競技会前の指導をする。
すいれき太鼓部が小学生に太鼓の打ち方の指導をする。

生徒育成チーム

【道 徳】生徒にはSOSの出し方、教員にはSOSの受け止め方と初期対応の講演会を計画。

評価検証チーム

【課題 2】学校評価の項目の見直しを行った。

広報チーム

【課題 3】クラウドファンディング型ふるさと納税に挑戦。

【課題1】小中学校との連携 春日居中学校・春日居小学校



生徒対象の総合的な学習の時間オリエンテーションの実施

探究学習の意味ややりがい、楽しさを高校生の実践事例から話す。



小中高校の教員によるワークショップ

- ・不登校の実態と手立て
- ・スマホ・携帯・ゲーム等の実情と対策
- ・身につけたい学習習慣・生活習慣



【課題2】 評価検証チーム→評価項目の検討

1 授業では、学習の目標を明確に示していますか。

→ 授業では、本日の学習の目標を毎回の授業の始めに示していますか。

2 授業あるいは単元で、振り返りを実施していますか。

→ 授業あるいは単元の終了時に、振り返りを実施していますか。

3 振り返りを、授業改善や個別の指導に役立てていますか。

→ 振り返りの結果を受けて、授業改善や個別の指導を行っていますか。

4 話し合いや発表などの主体的で対話的な活動を授業に取り入れていますか。

→ 話し合いや発表などの主体的で対話的な活動を授業内で*1回以上、行っていますか。

*これは教務の方針で設定値が変わります。ここでいう「授業」というのが毎回なのか、あるいは学期中に1回なのか、5分間以上など、時間を求めるのか。

5 二者懇談など、生徒理解や学校生活に関わる悩みについて、相談できる体制を整えていますか。

修正案特になし

6「Classi」や「BYOD」など、ICTの活用を積極的行っていますか。

→「Classi」や「BYOD」など、ICTの活用を**必要とする授業や活動を行っていますか。

**ここも教務の方針で設定値を入れてもよいかもしれません。1日10分以上、などです。「積極的に」の表現は主観的なため、避けたほうが良いと思います。

Classiについてはアクセスログがとれると思います。アンケートと並行して実際のアクセス時間も調べることで、ICT活用の有無を知ることが出来るのではないかと思います。

7 今未来手帳は、生活習慣の確立や学校生活の意欲の向上に有効に活用されていますか。

→今未来手帳を使い、生活習慣の確立や学校生活の意欲の向上に活用していますか。

「有効に」の表現は主観的なため、避けたほうが良いと思います。実際に行っているかいないかのほうが、答えやすくなります。

8 教科担当で授業内容・指導方法について、話し合っていますか。

→教科担当で授業内容・指導方法について、***学期中に1回以上の打ち合わせを行っていますか。

***ここも教務で目標値を決めます。

9 相互授業参観を積極的行っていますか。

→相互授業参観を*学期中に1回以上行っていますか。

***ここも教務で目標値を決めます。「積極的に」の表現は主観的なため、避けたほうが良いと思います。2回以上行った教員は「とてもそう思う」に1回の人「そう思う」に、行いたいと思っていたが出来なかった人は「あまりそう思わない」に回答することが予想されます。

【課題3】 広報チーム→生徒の活動を全国に発信しよう

ふるなびクラウドファンディング

TOP | 参加したプロジェクト一覧 | ふるなびクラウドファンディングとは | お問い合わせ

ふるなびクラウドファンディングは、地域活性化を目的としたプロジェクトを支援するためのプラットフォームです。

年々減少していくフルーツ農家と地域産業を守る！将来地域を牽引していく高校生を応援したい！



山梨県富士吉田市
山梨県富士吉田市

目標金額 **165,000円**

参加人数 **15人**

残り日数 **173日 / 208日**

17% 達成

目標金額 960,000円

プロジェクトに寄附（返礼品なし）

寄付金額 100円以上 1000円未満 10000円以上

シェアする

プロジェクト 返礼品 活動報告

年々減少していく果樹農家
地域産業を守り、未来を牽引していく高校生を応援したい！

4 作品

プロジェクトリーダー

高校生が育てたシャインマスカットを全国へ

令和7年度課題の整理と令和8年度の取り組み

課題

【課題1】魅力ある学校づくり(学科再編に向けて)

【課題2】保護者・地域への情報発信

【課題3】持続可能な地域連携とコーディネーターの育成

山梨県立笛吹高等学校

4月24日(金)、今年度の第1回学校運営協議会(コミュニティ・スクール通称CS)が笛吹高等学校で開催されました。各委員による自己紹介、校長より学校運営協議会の運営等について説明があり議事に先立ち会長に山本様、副会長に三枝様に退任されました。その後、議事に沿って協議が行われました。

CS 便り

令和8年7月 第1号
笛吹高等学校運営協議会事務局



会長	山本 亮一	山梨県建設業協会重務部 部長	委員	雲場 泰成	山梨学院短期大学教授
副会長	三枝 剛子	陽光ブレイメン代表	委員	望月 栄一	笛吹市教育長
委員	佐野 宏	地域代表(下井地区)	委員	小澤 宏之	笛吹市総合政策部部長
委員	中村 正仁	令和8年度PTA会長	委員	綱倉 基克	笛吹市内で法律事務所を運営する弁護士
委員	山下 政樹	笛吹高等学校同窓会会長	委員	鈴木 駿一	石和温泉旅館同組合創理事長
委員	廣瀬 志保	本校校長	委員	飯沼 久裕	笛吹市立石和中学校校長
委員	青野 孝文	本校教務主任	委員	渡辺 政子	笛吹市立石和東小学校校長
委員	田中 健史朗	山梨大学准教授			

【議事について】

はじめに、「令和8年度山梨県立笛吹高等学校学校運営基本方針」について廣瀬校長より説明を行い、委員の皆様による審議の結果、承認されました。本校は文科省より指定を受けている研究指定校として探究活動やDXの推進を通して生徒一人ひとりの可能性を伸ばす質の高い学びを実現するとともに、安全・安心で心理的安全性の高い学校づくりを進め、地域や家庭と連携しながら主体的に未来を切り拓き地域社会に貢献する人材の育成を目指すことを説明しました。

続いて、「令和7年度学校評価報告書」について矢崎教頭より説明、DXハイスchool事業の一環として地元企業である(株)YSK e-com や山梨大学の教授を講師に迎え、生成AIに関する講演会を実施したことや、CBT方式による学力分析に取り組んだことを報告しました。また、いじめ防止の取組として外部講師によるストレスマネジメント講演会を実施したほか、キャリアデーを設け、生徒一人ひとりが将来の進路や生き方について考える機会を充実させる取り組みなどを紹介しました。

さらに、「令和8年度学校評価計画書」では、学びの基礎診断の診断結果を活用し、生徒それぞれの苦手分野に応じた家庭学習を推進することや、農場のクラウド化を進める計画について説明しました。土壌のpHや温度、湿度などのデータをクラウド上に蓄積し、生成AIやデータサイエンスを活用して作物の生育を探究する学習を展開していく予定です。

委員の皆様からは、「ICTを活用した学習の様子をぜひ見てみたい」「生徒が個別に学習をオンラインで実施できるため、教職員の負担軽減にもつながる」といったご意見をいただきました。また、出身中学校へ生徒が向かいの高校説明会の実施や、卒業後の進路モデルを具体的に示すことが、中学生や保護者への効果的な情報発信につながるなどの提案も出されました。

【各分科会の協議内容】

昨年の令和7年度の提言から挙げられた課題1~3について協議した。

【課題1】魅力ある学校づくり
【課題2】保護者・地域への情報発信
【課題3】持続可能な地域連携とコーディネーターの育成



【地域連携チーム】

地域連携分科会では、本校の探究活動「笛吹グローバル」について説明し、生徒が地域課題の解決に向けて主体的に学ぶ取組を紹介しました。委員からは、生徒の主体的な学びや成長が見られる一方で、活動内容が地域住民に十分伝わっていないのではないかと意見が出されました。また、「笛吹市をモデル地域として地域とのつながりを深めることが重要」「生徒が制作したキャラクターや商品は、デザイン登録など知的財産の保護を検討した方がよい」等の助言がありました。さらに、「公民館を活用した販売会や成果発表会を開催すれば、地域住民との交流の機会になる」との提案もありました。今後は、「高校生の探究活動の場を地域でどのように支えていくか」を検討します。

【評価検証チーム】

評価検証分科会では、「保護者対象アンケートには保護者が評価しにくい項目があり、学校の様子が十分に伝わっていないのではないかと」との意見が出されました。また、「保護者・地域への情報発信は十分とは言えず、伝え方の工夫が必要である」との指摘があり、新たにBLENDを活用した情報発信や学校行事とアンケートを連動させる方法が提案されました。さらに、「教員が学校評価の内容を意識して取り組めるよう、年度当初に評価項目を再確認しておくことが重要である」との助言もありました。加えて、教職員の業務量管理や健康確保の在り方についても意見交換が行われました。今後は、BLENDの活用をさらに工夫するとともに、保護者や地域への情報発信の充実にも努めていくことを確認しました。今後は、学校評価アンケートの設問内容や情報発信の効果について検証し、より実態に即した評価の在り方について協議を深めます。

【魅力化発信チーム】

魅力化発信分科会では、本校の学科再編や情報発信、地域連携について協議しました。学科再編では、総合学科1学科とし、生徒の多様な進路希望に対応できるよう、普通科の学びやスポーツサイエンスなど魅力ある系列づくりを進めていくことが提案されました。また、保護者や地域の皆様にも本校の取組をより広く知っていただくため、広報誌への掲載や観光面談との連携について意見が交わされました。さらに、野球部やボランティア部が実施した温泉街清掃活動を継続的な地域貢献活動として発展させる提案や、部活動の魅力向上、大学生を含めた若手コーディネーターの育成についても話し合われました。今後は、学科再編に向けて学科の特色や教育内容の具体的な方向性について検討するとともに、地域や中学生、保護者への分かりやすい情報発信を強化していきます。

【生徒育成チーム】

生徒育成分科会では、生徒の人間関係づくりや自己肯定感の向上、地域とのつながりを通じた成長について協議しました。学校からは、いじめ事案について組織的な対応を行っていることが報告されました。その一方で、SNS上のやり取りや友人同士の伝言によるトラブルが増加し、人間関係が複雑化している現状について共有されました。委員からは、「生徒が自ら考え、対話を通して課題を解決する力を育てることが大切である」「ストレスへの対処方法や心の健康について学ぶ機会も必要ではないか」といった意見が出されました。また、地域でのボランティア活動や花壇整備、バラの育成活動などに参加することで、地域の方々と交流が深まり、自己肯定感や社会性の向上につながるのではないかと提案もありました。今後は、心の育成をテーマとした講演会やワークショップの実施を検討し、生徒がストレスへの対処法や自己理解を深める機会の充実を図っていききたいと思います。

今後も学校運営協議会でいただいた貴重なご意見を学校運営に生かし、地域・家庭・学校が連携・協働しながら、生徒一人ひとりの成長を支える魅力ある学校づくりを進めてまいりたいと思います。

今後のCS会議の予定

第2回	令和8年7月22日(水)
第3回	令和8年10月6日(火)
第4回	令和8年12月21日(月)
第5回	令和9年2月18日(木)

令和8年度 第2回 学校運営協議会

【地域連携チーム】

高校生の探究活動の場を地域でどのように支えていくか

【評価検証チーム】

学校評価アンケートの設問内容や情報発信の効果について検証し、より実態に即した評価の在り方を考える。

【魅力化発信チーム】

- ・学科再編に向けて学科の特色や教育内容の具体的な方向性について検討
- ・地域や中学生、保護者への分かりやすい情報発信について

【生徒育成チーム】

心の育成をテーマとし、生徒がストレスへの対処法や自己理解を深めるための講演会やワークショップの実施を具体的に検討